

飼料用米の 取組概要

2009年、 0.3haのモミロマンの試験田から 始まった飼料用米

肥料は1t/反の秋川鶏糞堆肥を利用 良質な地域循環を目指す

サステナブルな 地域循環

秋川牧園の鶏のえさに

10~25%配合し給餌



秋川牧園の鶏の鶏糞堆肥を 無償で飼料用米の圃場まで

飼料用米生産に活用

無投薬や飼料にこだわり



平均1 t/反の散布

マニュアスプレッターの貸し出し

秋川牧園 2022年飼料用米生産者分布図



◀飼料用米の動き

2009年~取組開始

- ○山口県の北部、中部、南部地域より飼料用米を 秋川牧園のタンクへ集荷
- ○えさの配送の帰り便を利用し飼料用米を 北九州の飼料工場へ移送することで輸送コストを削減



■最大800 t 保管可能な 飼料用米タンク



種子生産と種子販売による多収品種の普及

R4年度栽培品種



みなちから(晩生)





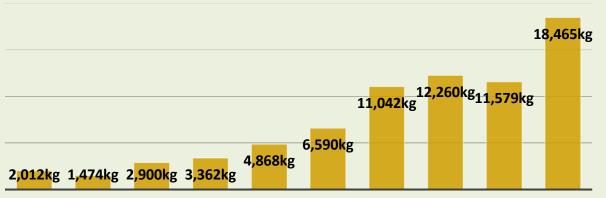
R4年度試験

- ·西海300号 (未登録品種)
- ·羽1719
- ·羽1879
- ·羽1880

西海ILII号

ふくひびき

外販種子受注数量



H24年度 H25年度 H26年度 H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 R1年度 R2年度 R3年度

グループ内の 専用品種の安定供給と 多収品種普及のため

秋川牧園の種子利用許諾取得状況

モミロマン	2010~	
北陸193号	2013~	
ホシアオバ	2014~	
夢あおば	2014~	
オオナリ	2015~	
きたげんき	2018~	
みなちから	2019~	
いわいだわら	2020~	
くらのぬし	2021~	

※現在、取扱いの無い品種もあります。

問合せ先:083-929-0384

多収品種の天候による3つのリスク(ウンカ、いもち病、登熟不良)

①ウンカ被害







圃場ウンカ調査

②イモチ病

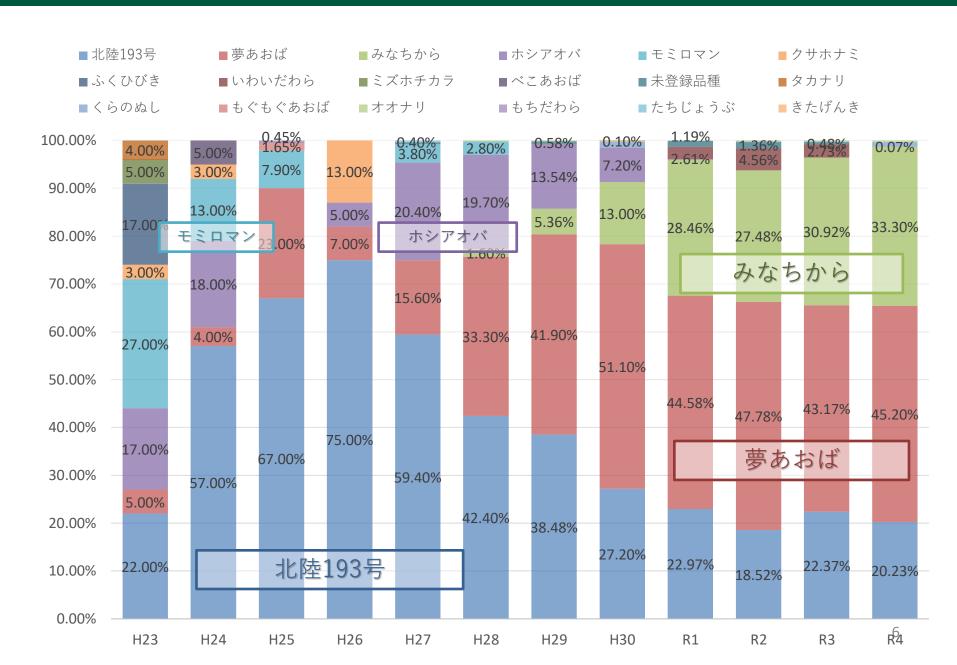




③登熟不良



作付品種の推移 H23~R4



飼料用米専用品種のメリット・デメリット 秋川牧園の主観 ~実際に栽培してみて気づいたこと~

品目	メリット	デメリット	改善点や気づき
モミロマン	・多収 ・倒伏性に強い	・一部除草剤感受性あり・不稔率が高い(籾での利用に難)	·登熟をよくするために、 不稔率の改善を
北陸193号	・多収 (秋川グループでは圧倒的多収 反当り1000籾kg超える) ・倒伏に強い	・種子休眠性が高く、休眠打破処理が必須 (去年の種子は処理無しでは使えない) ・ここ数年いもち病にかかっている ・ウンカに極弱、全滅の危機 ・脱粒性あり ・茎が太く硬い為、コンバインへの負荷大!	・ウンカ抵抗性遺伝子の組み 合わせを ・脱粒性の改善を ・いもち病抵抗性の遺伝子の 組み合わせを
みなちから	・やや多収・短稈で倒伏に絶大・麦と変わらない刈りやすさでコンバインの負荷も少ない・中生~晩生(北陸193号並み)・発芽が早く直播にも向く	・一部除草剤の感受性 ・紋枯れ病、ゴマ葉枯れ病に注意 ・不稔(一部)あり	・ゴマ葉枯れ病や紋枯れ病に ついては観察が必要 ・不稔米の改善
夢あおば	・やや多収 ・早生 ・早生品種では安定性が高い ・山口県北部や二毛作地では 組み合わせもよい ・籾もきれい	・多肥倒伏に弱い・ここ数年、地域によってはいもち病に罹りやすい	いもち病の抵抗性遺伝子の 組み合わせは急務!・多収のUP (現状では反当り700~800籾 kg)
オオナリ	・多収 ・中生の早(北陸よりも早い) ・北陸同様に開張だが茎は柔らかく メリハやすい(コンバイン負荷は少)	・種子休眠性が高く、休眠打破処理が必須・一部除草剤の感受性	・まだ、秋川グループでは 大面積での取り組みが少なく 今後拡大して観察する

品種改良の歩みを止めないで!

刈りべりい(コンハイン貝何は少)

今後、多収品種は飼料用米の利用だけでなく、多収穫による自給率向上の要になる!多用途に利用も可能! 栽培歴も浅く、栽培技術も確立されているとは言い難い生産者は困っている!

国は、もっと品種改良に予算を!国の事業として品種改良を進めて!!

それを受けた秋川牧園での品種改良の取り組み

九州沖縄農研との研究協定を結ぶ → 秋川牧園も費用負担! 2021年~3か年計画 今年で2年目ベースは、13年前からの農研機構との信頼関係・・ 当初より多収専用品種(農研機構21品種)を!

農研機構と栽培研究協定を締結し技術指導いただく

- ・品種の耐病・耐虫性の確認
- ・地域別適正の確認
- ・管理上の問題点の確認
- ・収穫適期と収穫時の品質及び収量の確認



すべてを確認して 品種の選定を実施 (結果をフィードバック)



生産者毎の 最適品種を選定!

生産者に寄り添った生産技術指導や品種改良、新品種栽培試験の取り組みを行う



生産者の高い技術習得意欲と多収を目指すモチベーションに!

震農研機構

の技術指導と新品種導入試験の継続的な実施による知識の習得



※飼料用米の安定生産技術 1.安定多収栽培の基礎知見 2.気象条件の解析

3.土壌調査 4.ウンカ抵抗性の品種間差など



※新系統育成試験と 栽培管理及び、 みなちからの適切な 栽培技術指導

農研機構 九州沖縄農業研究セン ター片岡先生 2017~現在



※新系統育成試験と栽培管理

- ・早生品種の更新
- ・飼料米ウンカ抵抗性遺伝子 を持った品種の育成試験

良好な地域循環と耕畜連携の強化

ルール化!!

~堆肥利用の重要性~

耕種農家は畜産農家の堆肥を利用して 飼料用米を生産するという仕組みを!

畜産農家は耕種農家の

立場での堆肥作りを!

畜産農家は増肥をたた処分するという産廃という 位置づけてなく、飼料用米生産のための良質な

増肥を作るという事に力を入れるべき!

良質な 堆肥を 作る



反収UP に!

耕種農家も

実需者である畜産農家の

良質な堆肥を利用することを条件に!

^{*} 良質な ^{*} 堆肥で 飼料用**米** 生産



畜糞堆肥の連続施用による地力の増進!

- ・元肥は秋川牧園グループの発酵鶏糞堆肥と混合堆肥件糞寒糞
- 基準:1000kg/反 N量3.5%リン、カリは充分! ⇒ 継続無償供給(2019年は1000t)
- ・秋川牧園所有の自走式マニュアスプレッダー2台を貸出し
- ・良質な発酵地肥生産のため、エアレーション可能な地肥舎の増設および、大型ホイルローダーや地肥ダンプを導入

良好な 地域循環



地力增進



生産コスト削減



多収実現!

























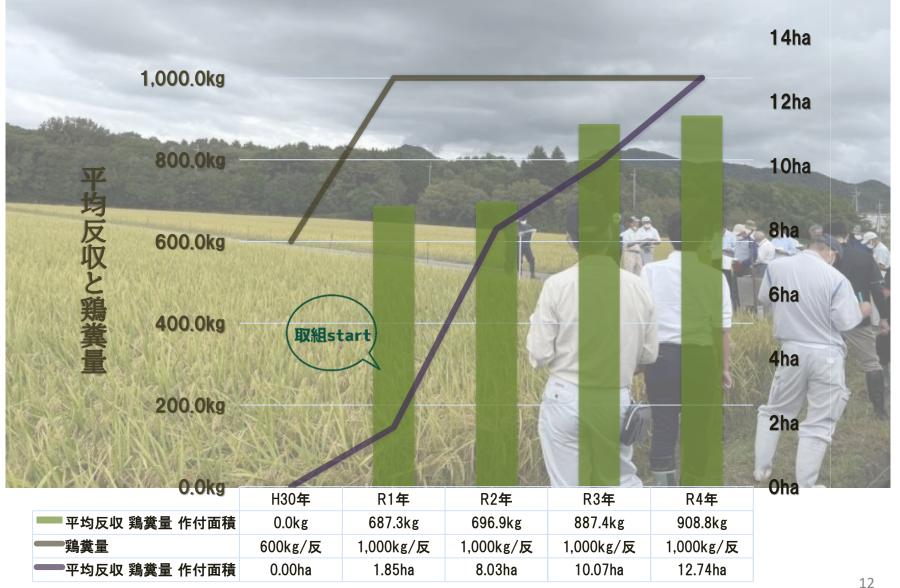






【例】農事組合法人ファームあまだ

~鶏糞投入による地力UPと年2回の視察会で実力UP!~



もっと大切なこと

飼料用米は地域循環の要!

みどりの食料システム戦略において環境対策として、 耕畜連携を本格的に進める好機ではないか!

水田を活かした、自給戦略に合うべき 水田でできるものといったら米以外にない! 飼料輸入依存からの脱却!

水田をフル活用して、エサにも使う

小麦やとうもろこしの代替えにも使い 食味重視の米作りばかりではなく、 多収品種や多収技術を生かした米作りを推進 反収を倍増し自給率の向上につなげる

将来の食料危機に備える!!



- ①徹底的なコスト削減と技術向上
- ②反収UP!! 目標1t/反(籾) が条件!

連携をもっと強くしてお互いが支えあう農業に進むべき

飼料用米を本作に!



多収日本一コンテスト事業を活用した 飼料用米生産の活性化

~高い技術力を共有するために~



多収日本一コンテストは 受賞式だけで終わるのではなく、優秀事例の発表や、 次年度の生産に繋げるための技術の共有の場を!



各受賞者を中心とした圃場を 見て回り、技術を共有するような 全国規模の視察研修会やシンポジウムの開催を!



飼料用米生産の活性化や 生産者のモチベーションUPにもつながる

飼料用米生産者の意識レベルのUP!

飼料用米は『エサ!』だけど商品です!

真面目に一生懸命作ってます・・?

食用米以上に手を入れないと採れません。

農業は人づくり!

農家の適切な評価を!

- ・リーダーの育成教育!
- ・農産品目別マイスター制度の実施!
- ·農業参入資格制度(就職試験)
- ・5年間の実績評価主義の実施
- ・助成金支給をランク分けetc・・

退路を断って飼料用米を作る、その覚悟が成功への近道!



御清聴ありがとうございました。



秋川牧園